

令和8年度通常総会

日時: 令和8年5月21日(木)

: 15時00分

会場: 鹿児島サンロイヤルホテル

鹿環協かわら版

みずすまし

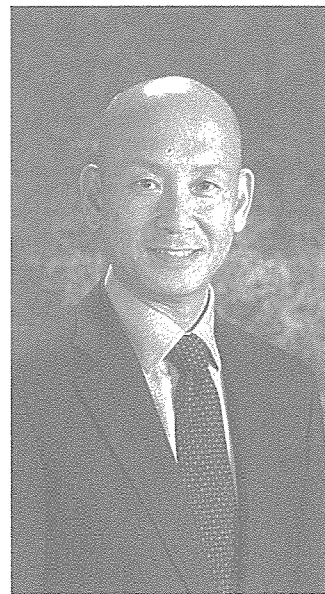
Kakankyo

発行者

発行日 令和8年1月1日
鹿児島県環境整備事業協同組合
理事長 宮地 光弘
鹿児島市宇宿2丁目9-9
URL <https://kakankyo.net>

令和八年 新春を迎えて

理事長 宮地 光弘



▲宮地理事長

新年あけましておめでとうございます。
組合員 関係者の皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
また、日頃より組合活動にご指導、ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。
さて、我が国経済は、米国の通商政策による影響が見られるものの、緩やかに回復していると思われまふ。今後、海外景気の影響が我が国の景気を下押しすることが懸念され、物価上昇や自然災害の影響、金融資本市場の変動等の影響を十分注視していく必要があると見られます。
昨年十一月二十一日に経済対策を閣議決定し、ガソリン暫定税率の廃止などインフレに直面する家計・企業への支援策などが講じられることとなりましたが、私共中小企業が成長していけるような政策が速やかに展開されることを期待しております。

本組合では、将来を見据えた「活動方針」に掲げる強固な経営基盤づくりや、時代の変化や多様なニーズに即した先進的対応、そして社会から信頼・評価される事業活動を目指して、各種会議や研修会等の開催、行政機関との対話など各種活動に積極的に取り組んでおります。
わが業界を取り巻く環境は、燃料や資材価格の高騰、少子高齢化等に加え、カーボンニュートラルの実現やデジタル化の進展など様々な局面で大きな変革を求められるなど、大変厳しい状況にあります。私共はこれら課題に適切に対応し、社会から信頼・評価される事業活動を推進していく必要があると見られます。私が申すまでもなく、経営者は日々の努力はもちろん、普段から問題意識を持って業界の置かれた状況把握し、組合員相互にしっかりと連携を図りつつ、常に的確に企業活動を進めていかなければなりません。
本県においては昨年八月に始良市や霧島市で豪雨災害が発生し、浄化槽への土砂流入などの被害が相次ぎました。県生活排水対策室や公益財団法人鹿児島県環境保全協会と連携して復旧対応が行われましたが、初動対応や国の事業の活用など課題も認識できました。当組合も市町村と個別に「災害時におけるし尿及び浄化槽汚泥等の収集運搬に関する協定」を締結する取組を進めています。

また、浄化槽の処理方式や構造等が多種多様化している中、浄化槽維持管理技術研修会において公益財団法人鹿児島県環境保全協会から「レベル0の発生状況と改善策について」ということで本県における型式ごとの水質悪化の原因別発生率を学びました。その後、浄化槽製造業の皆様と個別に、水質保全のための苦労や各型式への疑問、意見など率直に意見交換を行いました。日常の点検業務において適正な水処理が常に維持できるような研鑽に努め、地域社会の健全な水環境を守ることを通じて、生活環境の保全や公衆衛生の向上に取り組んでまいります。
当組合が、今後一層の地域貢献ができるよう組合員と活発に議論や対話を重ねながら事業活動を展開するとともに、次世代のリーダーの育成や活用も図りながら、積極的に活動してまいりたいと考えています。また、各種委員会等の検討結果を組合活動に具体的に反映していくため、事業主自らが、組合の普遍的な理念や各年度の活動ビジョン等を認識し、課題解決のために積極的に情報共有、視察及び研修を行うような組織づくりを目指したいと思っております。
引き続き関係各位の一層のご支援、ご指導を賜りますようお願いいたします。



▲県生排室 綾織室長

令和七年十一月十四日、マリンパレスかごしまにおいて事業主を対象に研修会が開催された。
講演Iでは、「鹿児島県生活排水対策について」というテーマで、講師の鹿児島県土木部生活排水対策室長の綾織孝文氏から幅広い内容の講演をしていただいた。
まず、鹿児島県では、浄化槽の新設や転換で汚水処理人口普及率の上昇が図られている。
次に、昨年度に設置された鹿児島県浄化槽協議会（法定協議会）の進捗状況について、第一回作業部会で効率的な普及啓発や要領（事務取扱・指導監督）業務フローの見直し、改善などのテーマが協議され、近日中に開催される第二回作業部会で合意された事項については、法定協議会で決定したいとのことであった。
また、令和七年八月七日に霧島市や始良市で発生した豪雨災害に対する復旧対応に際して、浄化槽の蓋流出や槽内への土砂流入などの対応について説明された。
今回の対応で様々な検討を行ったとのこと、この経験を今後の災害復旧対応に活かしたいとのことであった。

令和七年度 事業主研修会

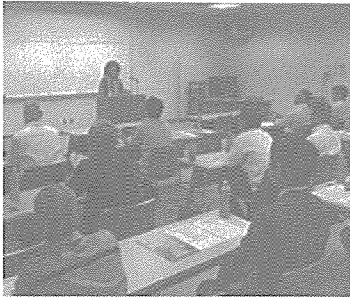


▲研修会全景



▲全清連 野村 俊明 氏

講演IIでは、「廃棄物処理法の基本を踏まえたこれからの一般廃棄物の適正処理の推進について」と題して（社）全国清掃事業連合会政策企画委員の野村俊明氏より講演いただいた。重要な通知である平成二六・十・八通知に關して、委託基準が経済性の確保等の要請ではなく、業務の確実な履行を求める基準であることに留意する必要があると、市町村は受託者と連携して生活環境の保全上の支障の除去や発生防止のため、必要な措置を講ずる必要があるなど、市町村の処理責任が極めて重いことを説明された。
併せて、個々の企業で考えなくても打開のヒントや方向性が見えない。多社が協働すれば状況打開につながるため、「競争社会から共創社会へ」という視点が重要であるとのことであった。講演を受け、未来に向けて行動を改める必要性を改めて認識した。



令和七年九月十九日、鈴
 良市の加音ホールにて錦江
 ブロック研修会を二十八名
 が参加し開催した。
 テレビ等で活躍中の榎南
 日本放送タレント 竹之内
 雄太氏を迎えて『てくてく
 な少年がどんとやってみ
 た』のテーマで講演された。
 ユーモアを交えて高校では
 夢が叶わなかったが、生徒
 会長になったことが、大学
 では夢が見つからず、「たぐ
 目立つのが好き」という理
 由で卒業後は吉本興業の養
 成所に通い、タレントにな
 ったこと。タレントになる
 までの苦労話、テレビに出
 続ける難しさに始まり、リ
 ポーターの仕事でのコミュ
 ニケーション術や情報活用
 術など笑いの絶えない講演
 となった。

その後、八月の豪雨災害
 で被害のあった始良市・霧
 島市の組合員から「災害復
 旧では初動対応が非常に重
 要。早期の復旧のため、災
 害廃棄物の仮置場の早期設
 置、分別の周知徹底をして
 生活環境の悪化、処理費用
 の増大、処理期間の長期化
 とならないように平時から
 行政との事前準備が必要」と
 報告があった。

錦江ブロック研修会



大隅ブロック研修会

令和七年十月十七日、大隅ブロック研修会が開催され、鹿屋市の二施設にて視察を行った。

クリンセンター鹿屋では、坂本淳一所長から施設の概要や処理の流れ等について説明頂いた。特に搬入量については現時点で既に処理能力を上回る量であり、鹿児島県の汚水処理人口率を鑑みると将来的に当施設だけでは処理に問題が生じる恐れがあることや、災害時における汚泥やし尿の処理にも課題があることが分かった。

鹿屋市下水道処理センターでは、假谷芳幸所長から施設の概要等について説明いただいた。後、施設を視察した。今年の一月に埼玉県八潮市で発生した道路陥没事故が記憶に新しいが、全国的に下水道管の老朽化が問題になっており、当施設でも下水道管のひび割れにより、大雨の際には雨水が管内に入り搬入量が倍近くになっている現状があるとのこと。

今回の研修会では業界が抱える課題について再確認することができ、有意義な内容であった。

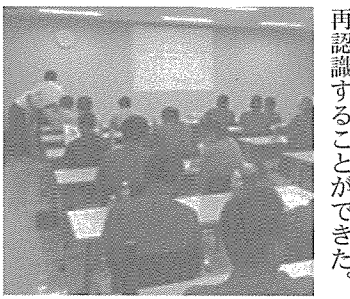


北薩ブロック研修会

令和七年十月二十日、阿久根市のABCバレスにおいて北薩ブロック研修会を開催した。

本研修会においては、濱田技術管理委員長と白坂ブロック長をファシリテーターとして、第三十二回鹿環協浄化槽維持管理研修会における浄化槽メーカーへの質問回答書に基づき、鹿環協理事、(有)阿久根清掃社及び(株)ロックスの現場担当者など総勢二十名にてオンラインディスカッションを行った。現場担当者より「散気管の目詰まり解消方法」「コンバクト・モアコンバクト浄化槽の普及に伴う保守点検時間の増加」「団体入れ替えにおける高額費用」等の多くの問題提起があり、全員で現場が抱える課題、意見を共有した。問題提起があった意見は、浄化槽維持管理研修会において取り上げることとした。

本研修会全般を通じて、実際に現場に携わる方々より忌憚の無い意見や浄化槽の不具合改善事例を聞くことができた。それを共有できたことは鹿環協として大きな成果があった。



南薩・熊毛ブロック
研修会

令和七年十月十七日、鹿児島県環境保全協会にて環境保全協会大町盛一郎氏を講師として招き、三十四名が参加し南薩・熊毛ブロック研修会を開催した。

初めに浄化槽法を意識した業務を行うため、基準や業務の意義を認識し、基準に基づいた正確な点検・測定・記録ができているかを再確認した。

維持管理業務の水質測定について各単位装置における処理機能の診断、処理水質の評価を併せて行い、水質が良好な結果であっても、処理機能の変化をできるだけ早く見つけて、将来的な水質への悪影響を未然に防ぐことなどを再確認した。

点検項目では、浄化槽周辺の状況の点検、臭気の有無・異常な騒音の有無、躯体・内部設備及び付帯設備の点検などについて説明があった。また点検記録表については、点検・測定結果の記録を正確に記入し不具合がある場合、詳細を報告、改善方法の提示をすることを中心がけることを話された。

今回の研修では維持管理のプロとして必要なことを再認識することができた。

令和七年度第三十二回浄化槽維持管理技術研修会

令和七年十一月十四日マリニパレスかこしまにおいて、組合員及び各事業所から管理士等約二百二十人が参加して浄化槽維持管理技術研修会を開催した。

研修は、まずレバル〇の発生状況と改善策について、鹿兒島県における水質悪化の原因別発生率、と題して、公益財団法人鹿兒島県環境保全協会 検査二課 東村翔太氏による講演が行われた。

冒頭で、鹿兒島県浄化槽指導監督要領の「保守点検に起因する立ち入り要件の見直し」が検討されていることを説明され、日常の点検業務作業において適正な水処理を常に維持するた

テック、フジクリン㈱の六社に協力をいただいて行われた。

会場を四か所に仕切り、管理士は希望する製造業の所に参加し、鹿環協技術管理委員会との進行的もと、管理士と製造業メーカーが直接対話できる形で行った。

事前に、組合員から製造業毎の浄化槽に対する質問や意見を提出してもらい、各メーカーからも回答をいただいていたので、維持管理方法や注意点を掘り下げて熱心に意見交換が行われた。また、メーカーに対して意見要望を直接伝えられたので、双方にとって有意義な意見交換会であったと考えている。



▲浄化槽製造業との意見交換会



▲講演の全景

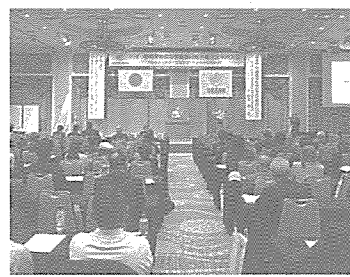
令和七年度第二十二回
全国環境連全国大会

令和七年十月二十四日、岡山ブラザホテルにて、第二十一回全国大会が開催された。一点から学び、つなげる、サステナビリティ「不易流行」をテーマに全国の組合員が一同に参加した。

講演Ⅰは演題を「廃棄物・資源循環行政の最近の動向について」として、環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課長杉本留三氏にご講演をいただいた。

「一般廃棄物の適正処理の推進」「循環型社会・環境経済の概要」「廃棄物分野における脱炭素化に向けて」「災害廃棄物の対応」「廃棄物処理施設整備の概要」「浄化槽の普及促進」について説明され、私たちが業界に関わる事業の動向を知ることが出来た。具体的には、持続可能な社会の実現を目指した「循環型社会」の推進、プラスチック資源循環法の施行、食品ロスの削減、再資源化の高度化など、近年の制度改正や政策の在り方に關する内容であった。環境行政は、「廃棄から資源へ」という考えを一層進化し、経済活動と環境保全の両立を目指す方向へ進んでいることが強調された講演であった。

講演Ⅱでの演題は「不易流行」変わらないものと変わらぬにはすまぬもの」として、榊日本総合研究所主席研究員の澁谷浩介氏にご講演をいただいた。本講演では、社会や経済、環境が大きく変化する中で、



▲全国大会の全景

組織や人が持つべき姿勢について「不易流行」の考え方をもとに講演された。「不易」とは、普遍的な価値や原理を守ること。「流行」とは時代の変化に応じ、柔軟に対応することを意味している。藻谷氏は環境問題・地域経済の変化・デジタル化など持続可能な社会の構築には、このバランスが不可欠であると指摘された。講演では、現場の知恵や地域の繋がりを基盤、「変わらない価値」を基盤にしつつ、新たな発想や仕組みで時代の要請に応える重要性が強調された。藻谷氏は、問題形式にして会場を飽かさせないように、笑いもあり非常にユニークな講演とされる方だと強く印象に残ったとともに貴重な講演であった。

講演後は、同会場にて大会式典があり、優良役員・従業員表彰・政府に対する要望決議発表・スローガン発表・大会宣言発表などが行われた。式典後は、大会懇親会が盛大に行われ、様々な出演者の方々が楽しく会場を盛り上げていただき、多くの方々との交流を深められ、大変有意義な時間となった。

40m³/min
強力吸引作業車

風量40m³/min ラインナップ

ベストセラー
SM
シリーズ

水の要らない
NS
シリーズ

低騒音
LS
シリーズ

高圧洗浄車 **MOBILE JET**
モービルジェット

K&E 兼松エンジニアリング株式会社
KANEMATSU ENGINEERING CO., LTD.



EcoMaru

し尿収集 / 浄化槽点検・清掃会社様向け
基幹業務システム

オプション
製品

現場でスマホ、スマートフォン・タブレット
現場で印刷！ 現場支援システム Android版

オンラインデモ実施中！

0800-100-5239

受付時間 9:00～12:00, 13:00～17:30(月～金)



communication consulting company
日本電算株式会社

<https://nihondensan.com>

美しい水を守る



フジクリン 株式会社

フジクリン

福岡支店 〒812-0016

福岡市博多区博多駅南4丁目2番10号

TEL 092-441-0222 FAX 092-441-0252

鹿児島 営業所 〒890-0072 鹿児島市新栄町25番8号

鹿屋 営業所 〒893-0023 鹿屋市笠之原町1561-2

川内 営業所 〒895-0044 薩摩川内市青山町4219番地1

TEL 099-257-3501 FAX 099-257-3590

TEL 0994-43-4437 FAX 0994-43-2710

TEL 0996-27-2905 FAX 0996-27-2915



共同開発 臭気・衛生対策製品

花王が開発した液をモリタエコノス独自技術で効率的に噴霧！



菌・ウイルス除去に

ミラクルキヨラ™

菌・ウイルスを99%除去※
エタノール不使用で引火の心配なし！

※すべての菌・ウイルスを除去するわけではありません。

生ゴミ臭対策に

ミラクルキヨラ™

東田香料で不快な悪臭を爽やかな香りに！

ポンプオイルに添加するだけ！

不快臭対策に

ミラクルチェンジャー™

不快な悪臭を心地よい香りに変化！



環境保全車両の開発・製造・販売

株式会社 **モリタエコノス**

Webサイトはこちら



このQRコードはアクセス解析のためにCookieを使用しています。
アクセス解析は匿名で収集されており個人を特定するものではありません。
この機能はCookieを有効にするとき、Cookieを用いた収集を拒否することができます。
お客様のデバイスのブラウザの設定をご確認ください。
QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

経営管理委員会報告 委員長 土屋 要九

九月四日、第一回委員会を開催しました。

議題一の事業主研修会については、講演Ⅰの講師案として「鹿児島県土木部生活排水対策室」に、講演Ⅱの講師案として「(一社)全国清掃事業連合会」をお願いすることを提案し、承認を得ました。

議題Ⅱの災害支援における費用負担の考え方については、災害時し尿等収集業務支援協定締結市町村の確算方法について内容案を共有し、次回以降に再協議することとなりました。国交省公表の参考資料より公共工事設計労務単価の考え方や災害等廃棄物処理事業補助対象等を確認し合っています。

その他委員間で「鹿児島県の保守点検業務登録条例」の内容等を共有・確認しました。

技術管理委員会報告 委員長 濱田 秀之

八月七日、第一回委員会を開催しました。

議題一の令和七年度浄化槽維持管理技術研修会の浄化槽メーカーとの意見交換会については、組合管理士等から募集した浄化槽メーカー八社への質問内容を精査し、メーカーに照会することとし、実施に向けてメーカーごとの担当者を決め協議を進めていくこととしました。また、対応レベル0については、発生原

因を精査し対応を協議しました。

そして第二回委員会を十一月七日に開催し、研修会の意見交換会の役割分担やシナリオ、会場の使い方等の詳細を協議し、メーカーとも情報共有することとしました。また、八年度研修会の日程及び研修会の構成内容についても協議しました。



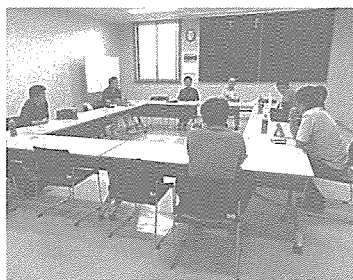
▲技術管理委員会の様子

企画広報委員会報告 委員長 下ノ堀 昇平

十月九日、第一回委員会を開催しました。

まず、鹿環協かわら版(行政向け)「みずすまし」令和八年一月号の記事の内容と担当の割り付け確認を行いました。かわら版は当組合の活動内容を広く周知するために年二回発行しており、その内容は、その年に開催される内容を詰め込んでおり、新年挨拶・事業主研修会・ブロック研修会・委員会報告・各種勉強会・災害対応のほか、その年の組合イベントなど、盛りだくさんの内容となっています。次に、組合員向けの「ミ

ズスマシ」一月号は、令和七年八月に始良市と霧島市で発生した豪雨災害に関し、今後災害が発生した場合の支援や復旧活動が円滑に行われるよう対応や課題をまとめることとしました。各種勉強会・各社の保守点検に関する創意工夫・地域貢献活動・組合員が知っておくべきその時々トピックなどを掲載していきます。



▲企画広報委員会の様子

全国中小企業団体中央会会長表彰

十二月八日、中央会創立七〇周年記念式典において、当組合青年部が、これまで功績に対して全国中小企業団体中央会会長表彰を受賞した。



▲表彰式(松原会長)

大規模災害対応(始良市)

令和七年八月七日からの大雨に伴い、始良市では川の氾濫が相次ぎ床上・床下浸水の被害が多数出るなど甚大な被害となった。

始良衛生(有)では、災害廃棄物の仮置場から処分場への運搬業務を行いながら、浄化槽への土砂流入も二百件を超えて対応を迫られた。まず、県生活排水対策室による現場確認や環境保全協会による被害調査が行われ、始良市にその結果を報告して、公費負担での浄化槽清掃が必要との判断をしていただいた。通常の清掃とは違い、異物、特に土砂の引抜を行うことから環境保全車両業者に作業上の注意点を確認したり、始良市クリーンセンターとの入念な打ち合わせなど事前準備に時間はとられたが、職員の強い使命感のもと被災した浄化槽の清掃を十月末には終わることができた。

スムーズに業務ができたのは、公費負担の清掃の必要性を理解して予算の確保に奔走された始良市担当部署、酷暑の中で早急に被害調査をされた県生活排水対策室、環境保全協会のおかげである。この経験を活かし、住民の安心・安全な生活を守るために努力していきたい。



健康づくり研修会

十月十日、『健康づくり研修会』がゴールデンバームカントリークラブ及びホテル・レクストン鹿児島で行われた。天候にも恵まれ、ゴルフコンペには二十二名が参加し、枕崎清掃社の菊永善之氏が優勝した。

健康ミニ研修は、『4スタンス理論について』というテーマでPhysiological Projectの宮崎優さんを講師に招き行われた。宮崎さんは腰痛、頸関節症、臀部のしびれ等の体の不調があつたが、4スタンス理論に出会い、これらが改善されたそう。講演は同理論の入り口ではあつたのだが、意識の違いや物の握り方等で正しい筋肉の使い方を知り、柔軟性の変化や力の入り方の違いを体感できたとのこと。普段の生活から意識を変えることによって、長期的に体の負担を減らせるのではないかと感じるような内容であり、非常に有意義な研修会であつた。その後の懇親会も成績発表などが行われ、非常に楽しい会となつた。



▲健康ミニ研修

編集後記

今年の夏もまた、記録的な猛暑が日本全国を襲いました。もはや日本の夏は「暑い」ではなく「危険」という言葉がふさわしいのかもしれない。年々、夏が長くなっている様に感じます。総務省消防庁によれば、令和七年五月から八月までの熱中症による救急搬送人員の累計は、平成二十七年以降で二番目に多くなっています。

そんな中、令和七年六月一日に施行された「改正労働安全衛生規則」により、職場における熱中症対策が事業者の義務となりました。

これまでも熱中症予防は呼びかけられていましたが、十分な対策がとられず命を落とすケースが後を絶ちませんでした。今回の義務化は国が踏み込んだ一歩ではないでしょうか。義務化された具体的な対策として、

- ①早期発見の体制整備
 - ②重篤化防止措置の実施手順
 - ③関係者への周知
- これらの義務を怠った場合には罰則等を科される可能性もあります。

今回の熱中症対策義務化で、自分自身熱中症対策の大切さを見直すきっかけになりました。暑さに負けず、安心して元気にすごせる生活を、日本全国、地域全体でつくっていきましょ。

(有)南薩東京社

松尾 優太朗